

記載例

年 月 日

令和 6 年 9 月 30 日  
までの日付を記入

静岡県農業再生協議会長 様

所在地 静岡市葵区追手町〇-〇  
取組実施者名 株式会社〇〇肥料店  
代表者氏名 代表取締役 静岡静夫

令和〇年度肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領（令和 3 年 12 月 20 日付け 3 農産第 2156 号農林水産省農産局長通知）第 13 の 2（ ）の規定に基づき、別添のとおり報告する。

（添付資料）

- ・様式第 11-2 号
- ・様式第 11-3 号
- ・その他農政庁が必要と認める書類

令和 4 年度に申請：令和 4 年度  
令和 5 年度に申請：令和 5 年度  
申請別に分けて提出して下さい。

●ご提出いただく書類について●

＜令和 4 年度秋肥申請＞

- 様式第 11 号
- 様式第 11 号 別添
- 様式第 11-2 号
- 様式第 11-3 号（参加農業者毎）

＜令和 5 年度秋肥追加分・春肥申請＞

- 様式第 11 号（←秋肥追加分・春肥あわせて 1 枚でも可）
- ※以下、秋肥追加分、春肥別に作成（申請時と同様）
- 様式第 11 号 別添
- 様式第 11-2 号
- 様式第 11-3 号（参加農業者毎）

## 肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

## 第1 取組実施者名

株式会社〇〇肥料店

参加農業者名簿（様式第11-2号）  
の取組面積の合計と一致

## 第2 事業の取組概要

参加農業者数（件）	取組面積（ha）
7件	100ha

## 第3 取組実績

取組メニュー	取組の実績
ア 土壌診断による施肥設計	参加農業者の約〇割が土壌診断に取り組み、化学肥料低減に向けた施肥を行ったことで、化学肥料の低減が図られた。
イ 生育診断による施肥設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローンによる水稻の葉色診断を活用する参加農業者が〇件増加し、当該参加農業者では追肥作業をより精密に行うことで、従来から施肥量が〇割～〇割削減できた。</li> <li>・作物の葉色や植物体の栄養診断に基づいた施肥設計による施肥を実施した結果、化学肥料の施用量が〇割～〇割削減できた。</li> </ul>
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの栽培暦を低投入型の施肥設計に変更したことで、〇件の農業者が当該肥料に切り替えたため化学肥料の施用量が〇割～〇割削減できた。</li> <li>・部会内で栽培暦ならびに施肥体系の見直しを行い、低投入型の施肥設計とし、化学肥料の低減を進めた。</li> </ul>
エ 堆肥の利用	堆肥の販売量は、以前に比べ約〇倍となり、化学肥料からの転換が図られた。堆肥の散布量を増やした農家では、土壌診断も行うことで、基肥を前年から〇割削減した事例があった
オ 汚泥肥料の利用（下水汚泥等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚泥肥料の販売は、以前に比べて〇倍となり、化学肥料からの転換が進んだ。</li> <li>・汚泥肥料〇〇（肥料銘柄）の販売を促進したところ、約△袋（□t）の購入があった。購入先の農家に使用状況を聞いたところ、生育が良くなったとのことから、今後も継続した利用が見込まれ、約〇割の化学肥料の削減が見込まれる。</li> </ul>

カ 食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品残渣を使用した肥料を購入した参加農業者は以前に比べて〇倍となった。</li> <li>・〇〇の残渣を持ち込んで圃場にすき込んで利用した。</li> </ul>
キ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む。）の利用	<p>有機質肥料の販売量が例年から約〇割増加し、化学肥料の低減につながった。</p>
ク 緑肥作物の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者〇件が緑肥種子の利用に取り組み、すき込み作業を行った結果、基肥を△割削減した農業者もおり、化学肥料の施用量が〇割削減できた</li> <li>・緑肥作物のすき込みを行い、土壌の保肥力を向上により化学肥料の低減につながった。</li> </ul>
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇種苗の推奨する肥料施用量の少ない品種を導入し、〇件の参加農業者が栽培に取り組み、化学肥料の低減に繋げた。</li> <li>・〇〇などの品目において、肥料施用量の少ない品種の作付に〇件の参加農業者が取組んだ。従来の品種からは施肥量が約〇割少ない施肥体系となっていることから、同程度は使用量が削減されたと考えられる。</li> </ul>
コ 低成分肥料（単肥配合を含む。）の利用	<p>主力銘柄であった「〇〇（肥料銘柄）」から「□□（肥料銘柄）」への切り替えを推奨。その結果、使用した参加農業者では、約〇割の減肥となった。</p>
サ 可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローンによる追肥作業を実施したことで、肥料の施用量が〇割削減できた。</li> <li>・可変施肥機の利用で、適正な施肥量の散布により化学肥料の総使用量の低減が図られた。</li> </ul>
シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うね立て同時施肥を行う〇件の参加農業者の施肥状況を確認したところ、効率的な施肥により約〇割の基肥の削減につながっていた。</li> <li>・側条施肥を行い水稻を作付けする参加農業者が〇件おり、効率的な施肥により減肥につながった。</li> </ul>
ス 育苗箱（ポット苗）施肥の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻育苗箱全量施肥に取り組み、ほ場で使用する化学肥料を低減した。</li> <li>・例年と比較して、育苗箱専用の肥料の販売量が約△割増加したため、地域内の施肥体系と比較すれば、基肥・追肥で合わせて約△割の削減になったと見込まれる。</li> </ul>
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。）	<p>今まで取扱いしていた「〇〇（肥料銘柄）」から、成分が同じでより低価格の「□□（肥料銘柄）」の取扱いを増やしたところ、販売量が約〇割増加した。その価格差から、約〇%のコスト節減の効果があったと推察される。</p>

ソ 地域特認技術の利用 ( )	
--------------------	--

(注) 参加農業者が、実施期間を通じてどのような取組を行ったか、また、その結果として、取組前と比べてどの程度の化学肥料の低減が図られたかを、使用記録等を参照し、できる限り定量的に記入してください。

- ・参加農業者から証拠書類の確認や聞き取りを行い、どのような取組を行ったか、取組前と比較してどの程度化学肥料の使用量が減ったか等について、できる限り具体的に数値等を用いて記載してください。
- ・また、お示ししたのはあくまで記載例です。上記の記載例を参考として、取組メニューによって適した記載としてください。

#### 第4 化学肥料の使用量の低減に向けて継続的に取り組むための取組計画

(例)

- 土壌分析点数の増加による土壌診断の強化
- 堆肥供給量の増加に向けた近隣の畜産農家や生産業者との連携
- 有機質肥料の販売強化・利用拡大
- コスト節減を意識した低価格肥料の販売量増加

化学肥料の使用量低減に向けて、今後取り組む主要な取組について記載してください。